

事務事業評価シート

(平成 26 年度実施事業)

事務事業名	有機物資源活用施設管理運営事業			事業コード	3155
所属コード	154000	課等名	産業振興課	係名	畜産林業グループ
課長名	畠山栄幸	担当者名	坂本勝彦	内線番号	251
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要（旧総合計画体系における位置づけ）

総合計画 体系	施策の柱	活力ある産業の振興	コード	
	施策	活力ある農林業の振興	コード	51
	基本事業	生産基盤の整備	コード	512
予算費目名	6 款 1 項 4 目 有機物資源活用施設管理運営事業（7-1）			
特記事項				
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度			開始年度 年度
根拠法令等				

(2) 事務事業の概要

有機物（家畜排せつ物等）資源をたい肥化し有効利用することにより，畜産環境の保全と資源循環型農業の推進を図るため，原料の収集・たい肥製造・販売を目的とし施設を管理運営するもの。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

平成 18 年玉山村との盛岡市の合併により玉山地域で排出される家畜排せつ物（牛ふん）と盛岡地域で排出されるもみ殻等の有機物を有効利用するために，新市計画に基づき平成 24 年度に完成した盛岡市有機物資源活用施設を平成 25 年度より管理運営するもの。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

平成 26 年 3 月に「岩手県持続性の高い農業生産方式の導入に関する指針」が作成され有機物を活用し化学肥料の低減が推奨されている。

2 事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・

(1) 対象（誰が，何が対象か）

一般市民・農業者等

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 実績	26 年度 実績
A 堆肥原料受入量	t			2,025	2,500	2,210
B 堆肥出荷量	t			61	281	461
C						

(3) 26 年度に実施した主な活動・手順

有機物活用推進協議会開催・原料の収集・堆肥製造管理・機械施設の保守管理・製品販売活動

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 取扱い店舗数	店			6	10	14
B 有機物活用推進会議開催	回			1	1	1
C						

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

家畜ふんの有効利用により不適切管理の減少と畜産環境保全と資源循環型農業の推進を図る。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 牛ふん処理量	■上げる □下げる □維持	t			2,025	2,500	2,210
B 家畜ふんの不適切保管	□上げる ■下げる □維持	件			1	0	0
C	□上げる □下げる □維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 計画	26 年度 実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0	0
	④一般財源	千円	0	0	10,910	10,054	6,737
	⑤その他()	千円	0	0	1,550	2,562	4,766
	A 小計 ①～⑤	千円	0	0	12,460	12,616	11,503
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	0	0	960	960	960
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	0	0	3,840	3,840	3,840
計	トータルコスト A+B	千円	0	0	16,300	16,456	15,343
備考							

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価 (評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要)

① 施策体系との整合性

整合性がある

(堆肥の有効利用により化学肥料の削減, 資源循環による安全な農産物を生産することで整合性がある。)

② 市の関与の妥当性

妥当である

(資源循環型農業の推進により市民への安全な農産物供給のため必要)

③ 対象の妥当性

妥当である

(農家のほか一般市民へも供給していることから妥当)

④ 廃止・休止の影響

影響がある

(耕畜連携と資源の有効利用の観点から影響がある)

(2) 有効性評価 (成果の向上余地)

堆肥の利用者数を増やす余地はあると考えられる

(3) 公平性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

公平である

（一般市民に供給している）

(4) 効率性評価

最低限の人員により運営しており，経費削減の余地は無い

4 事務事業の改革案（Plan）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要（新しい総合計画体系における位置付け）

総合計画 体系（新）	施策（方針）	農林業の振興	コード	21
	小施策（推進項目）	生産基盤の整備	コード	21-2

(2) 改革改善の方向性

平成 25 年度より管理運営しているため，今後の事業実績を検討しながら改善する

(3) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

家畜ふんを堆肥化するための施設であり機械施設の腐食等による修繕が今後発生する可能性があるため、機械施設のメンテナンスにより最小に止めたい

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

- ☒ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☐ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

有機物（家畜排せつ物等）資源をたい肥として有効利用し，耕畜連携の資源循環型農業を推進するための事業・施設管理運営であるが，製品の製造技術は常に研鑽しながら，安定した成分を保つための問題点，改善部分を振り返りながら進めていく事が大事であり，今後においては，販路拡大，販売額を上げるための販売形態の研究に努めるとともに，効率的な運営による支出の節減にも配慮し，収支均衡にも努めながら引き続き事業に取り組んでまいりたい。